
若返りの村

風斬速斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

若返りの村

【Nコード】

N2389J

【作者名】

風斬速斗

【あらすじ】

若返りの村の恐怖…… 15歳になると1人、また1人といなくなる…… ほら、あなたの後ろに……

この国のどこかにある、四方を山に囲まれた駅も止まらず、バス停もない封鎖された人口300人足らずの村

この村では子供が15歳の誕生日に行方不明になる事件が続いている
事件を調べに来た警察も行方不明になり、何回も繰り返すうちに警察も来なくなった。村の人々も行方不明になった人は死んだということ探そうともしない

「ん？あのじいさん……」

その少年は来月15歳になる。自分も死ぬことになるかもしれない不安。だがその前にこの事件の真相を明かすまでは死ねないと思っていた

「あの方向には森しかないはず……。なにかありそうだな」

木漏れ日が照らす一本道、その先にあるのはこの村の神を祭っている祠

祠の話なんて村人からその存在以外聞いたこともない。なのにこの道はしっかりと整えられている

かなり距離をあけているからおそらくつけてることに気付いてないだろう。だがどこがおかしい……まさかわざと？

それからしばらく歩き続け、少し広い場所があった。そこから少し

先に祠が見えた

木の陰から祠の中を覗くとさっきのじいさんがいた。その奥に台座、その上には……白くて細い足が横たわっていた

「な、何してんだ……?」

しばらく見ているとじいさんが懐から取り出したものは……包丁だった

「なっ……」

真後ろから見ているため何が起きてるか分からないが、聞いていて悪寒がする嫌な音に地面に滴る赤い雫

「なっ、なにしてんだ!」

たまらず大声で叫んでしまった。そのじいさんがゆっくり振り返ると……口の回りの赤く、黒く滲んだ血も気にせずによりと口が裂けそうなほどの笑み

「わざわざ15歳になる前にここに来るとは……。1か月寿命が縮んだな」

「はっ、馬鹿言え、じいさんごときにつかまるか」

目の前の人間の異様な姿に気おされたこともあり、逃げようと振り返ると

「残念だったな、お前はここまでだ」

今来た道に村中の老人が集まっていた。その中の1人、村の長老が1番前で喋っていた

「長老……」

「ワシらの間ではこの村は……。15歳になったばかりの若き少年少女の血肉を喰らい、老人たちが若返る若返りの村と呼ばれている」

「なら……子供たちが行方不明になった次の日に新しい若い住人がいるのは……」

「そう……この儀式を行って若返ったものたちだ」

長老と話してる間に背後から、じいさんに包丁で刺された

「まだ少し早いが仕方ない……いただくとするか」

「さて！今回はワシの番じゃー！」

「男か……。男は固くてまずいからな……」

刺された部分から血が勢いよく抜け、薄れゆく意識の中間こえた最後の会話

ここは国から封鎖された若返りの村

子供の15歳の誕生日、子供と老人が行方不明になり、若き住人が村に住まう

この国のどこかで今もこの若返りの儀式が行われているかもしれない……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2389j/>

若返りの村

2010年12月10日20時41分発行